



発電所の構内にある祠（ほくら）である。

人びとは、これに向かって、手を合わせながら通りすぎていく。

中に祭られているのは4つの顔をもち、8本の手足をもつ金色の像。

ブラハマーとよばれるヒンズー教の神様なのだ。

タイは仏教国であり、拝んでいる人も仏教等に違いがないのに、こんな神様も共存している。

こうして、拝むという行動は形だけのようである。

でも、何かあった時はきっと心の支えになってくれることだろう

私も、ここを通るたびに手を合わせるようになった。